



## Bridge Report トラスト・テック (2154)

 小川 毅彦 会長兼社長	会社名	株式会社 トラスト・テック	
	証券コード	2154	
	市場	東証1部	
	業種	サービス業	
	会長兼社長	小川 毅彦	
	所在地	東京都港区新橋6-1-11 Daiwa 御成門ビル	
	事業内容	メーカーの技術開発部門及び製造部門を対象に人材派遣や業務の請負・受託等の人材サービスを提供	
決算月	6月		
HP	<a href="http://www.trust-tech.jp/">http://www.trust-tech.jp/</a>		

### － 株式情報 －

株価	発行済株式数(自己株式を控除)	時価総額	ROE(実)	売買単位	
1,458円	9,515,958株	13,874百万円	13.6%	100株	
DPS(予)	配当利回り(予)	EPS(予)	PER(予)	BPS(実)	PBR(実)
50.00円	3.4%	81.97円	17.8倍	365.68円	4.0倍

\*株価は5/23終値。発行済株式数は直近四半期末の発行済株式数から自己株式を控除。ROE、BPSは前期末実績。

### － 連結業績推移 －

(単位:百万円、円)

決算期	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	EPS	配当
2010年6月(実)	11,262	268	370	284	14,952.87	10,000.00
2011年6月(実)	13,588	443	486	427	4,501.39	2,800.00
2012年6月(実)	15,459	629	667	354	3,726.15	2,800.00
2013年6月(実)	14,915	718	804	460	4,839.00	3,000.00
2014年6月(予)	17,800	1,280	1,300	780	81.97	50.00

\*予想は会社予想。13年7月、1株を100株に分割。

トラスト・テックの2014年6月第3四半期決算について、ブリッジレポートにてご報告致します。

### － 目次 －

- [1. 会社概要](#)
- [2. 2014年6月期第3四半期決算](#)
- [3. 2014年6月期業績予想](#)
- [4. 今後の注目点](#)

## 今回のポイント

- ・14/6期3Q(累計)は前年同期比17.0%の増収、同102.3%の経常増益。自動車・自動車部品等の輸送用機器関連企業向けが好調に推移する中、半導体装置関連企業も回復し、技術者派遣・請負・委託事業の売上が同19.7%増加。製造請負・受託・派遣事業の売上も、輸送用機器関連企業、住宅関連企業、及び空調設備関連企業向け等を中心に同14.1%増加した。
- ・通期業績予想に変更はなく、前期比19.3%の増収、同61.7%の経常増益。利益面では、旺盛な人材需要への対応に向けた採用体制の強化と求人費の積み増し等を織り込み、4Q(4-6月)は慎重な見通し。期末配当は東証1部指定に伴う記念配当10円を含む30円を予定(年50円)。
- ・人材需要の急増で採用難が深刻化しているが、同社はキャリア採用での強みを発揮して需要の取り込みに成功している。全国の拠点に配置された採用担当者と営業担当者が連携する事で即戦力の人材を機動的に採用し、にマッチングできる事が同社の強みだ。契約条件の改善や単価改定も進んでいる事から、売上の達成とともに、利益は上振れする可能性が高い。

## 1. 会社概要

メーカーの技術開発部門や製造部門を対象とした人材派遣及び業務の請負・受託を中心に事業展開。製造部門向け派遣・業務請負・受託の(株)TTM、香港を拠点に中国で事業展開する日系企業向けに人材サービスを提供する香港虎斯科技有限公司(HKTT)及び、障がい者雇用を目的とした特例子会社の共生産業(株)の連結子会社3社と共にグループを形成し、メーカー向けのトータルソリューションの提供を特長としている。

### 【事業内容 ー 開発/設計(上流)から製造/流通(下流)まで一気通貫の人材サービスを提供 ー】

事業は、研究開発における技術分野の派遣、請負、業務委託を手掛ける技術者派遣・請負・委託事業、子会社の事業領域で製造工程業務等の請負・受託を手掛ける製造請負・受託・派遣事業、障がい者雇用促進事業、及び不動産賃貸事業の4セグメント。開発・設計(上流)から製造・流通(下流)まで一気通貫のサービスを提供する事で「技術」と「製造」の事業間シナジーを追求している。

### 技術者派遣・請負・委託事業(13/6期 売上構成比 52.5%) 事業主体:(株)トラスト・テック、香港虎斯科技有限公司(HKTT)

売上の約8割を占める技術者派遣と業務請負・委託を中心に、技術者の人材紹介、紹介予定派遣にも対応している。技術者派遣では、同社の技術社員が研究・開発、設計・解析、試作・実験、生産・技術等の業務に従事しており、派遣期間に制限がない。また、香港虎斯科技有限公司(HKTT)が、中国で事業展開する日系企業向けに人材サービスを行っており、ベトナム、インドネシア等、東南アジアへ進出する企業への対応も進めている。尚、当事業に就業する技術社員は「常用雇用者」であり、期間の定めのない雇用契約を締結している。

### 製造請負・受託・派遣事業(同 売上構成比 47.0%) 事業主体:(株)TTM

請負は主に顧客企業の構内において、同社が業務遂行指示や管理業務を含めて、加工・組み立て、仕上げ、検査、梱包・出荷等の作業を行うもので、一般の製造業同様に労働基準法等の関係法令の規制を受ける。売上の約4割が請負・受託で、約6割が派遣。

### 障がい者雇用促進事業

特例子会社 共生産業(株)が、重度の知的障がい者を主体に雇用し、梱包業務・クリーニング業務等の軽作業や(株)トラスト・テックが神奈川県相模原市に所有する不動産の保全業務を手掛けている。障がい者が健常者と同じ職場で役割分担をしながら安心して働ける職場の提供を目的としたCSRの一環としての事業である(障がい者雇用率は法定の2%を上回る水準を維持している)。

### 【取引先 ー 上場企業を中心とした優良な顧客資産 ー】

(株)トラスト・テックにおいては、顧客企業の90%以上が上場企業(14/6期上期売上高の49%)またはその子会社(同44%)かつ、その5割以上が年商1兆円以上の企業である。また、各セグメントの業種別売上構成比は、技術者派遣・請負・委託事業が、輸送用機器51%、次いで電気機器26%、機械10%、精密機器3%、その他10%(14/6期上期)。一方、製造請負・受託・派遣事業が、電気機器21%、輸送用機器16%、機械12%、住宅関連10%、印刷関連9%、食料品8%、その他製品6%、その他18%(14/6期上期)。

### 【トラスト・テックの特長・強み — 営業力、採用力、教育・研修、請負化の実績、及び国際化対応力 —】

同社の強みとして、営業力、採用力、技術者への教育・研修、請負化の実績、及び国際化対応力の5点を挙げる事ができる。全国へ展開する拠点ネットワークとグループの総合力を源泉とし、全国の拠点に配置された採用担当者と営業担当者が連携する事で即戦力の人材を機動的に採用でき、顧客企業のニーズにタイムリーにマッチングできることが同社の強みであり、顧客企業からも評価されている。

入社後には、教育・研修のカリキュラムが用意されており、技術者一人一人が目標設定を行うスキルアップ計画を立て、技術者、当社担当者、顧客企業の三者で進捗管理を行うことで、個々のスキルアップ推進を行っている。

また、派遣法改正による規制強化を受けて、「派遣」から「請負」へ人材サービスの利用を切り替える企業もあるが、自己完結で結果責任(生産量、品質、コスト)が求められる「請負」は、「派遣」のノウハウしかない人材サービス会社にはハードルが高い。同社は業務請負で豊富な実績を有し、自社の開発センターでの受託業務にも対応が可能だ。

更に、香港の現地法人(HKTT)は、人材紹介などにより日系企業の中国進出支援や中国現地企業向けサービスで実績を有し、人材サービス会社の海外展開では先頭集団を走る。東南アジアへの展開を視野に入れ、事業を進めている。

### 【中期経営計画 — ローリング方式による3か年のビジョンと経営数値目標 —】

「派遣」の売上を維持しつつ「請負」を拡大させる事で主力2事業の収益基盤の強化を図る事、及び海外事業や建築分野等への人材紹介を成長ドライバーとして育成・強化していく事の2本柱。メーカー向けのアウトプレースメントサービスや高齢者派遣等、新たな領域の開発にも取り組んでいく考えで、当面の目標は、16/6期に売上高250億円、経常利益率8%(経常利益20億円)。また、17/6期のイメージとして、売上高300億円を掲げている。

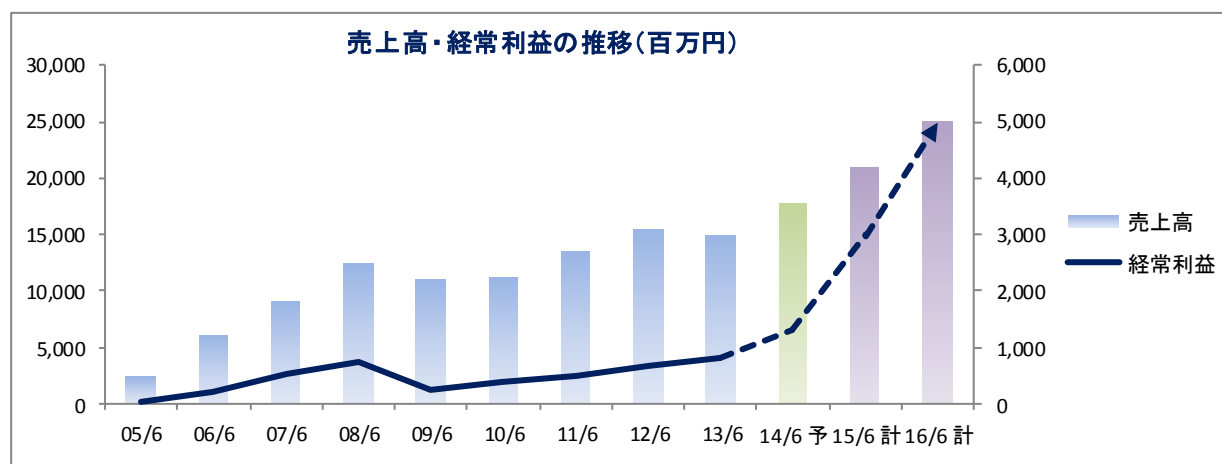
#### (1) 技術者派遣・請負・委託事業

16/6期の売上目標を150億円としており、請負・委託の積極的拡大と派遣の安定的成長を念頭に、工作機械、産業機械、電気機器等の業種や設備メンテナンス等の新分野の開拓も含め、従来の営業戦略(繁忙企業に対する総合提案)を徹底。M&Aにも積極的に対応していく考え。

また、人材紹介・新規分野と海外事業の育成にも取り組み、それぞれ16/6期売上高3億円を目標としている。国内においては、派遣の代替えとしての需要も見込める紹介事業を、建設分野への展開も視野に強化する他、メーカー向けのアウトプレースメントサービスや高齢者派遣を念頭に新たな領域の開発にも取り組んでいく。海外事業では、紹介事業を中心に香港現地法人のビジネスが軌道化しつつある事を踏まえて、中国現地法人の設立や東南アジアでの拠点開設を具体化したい考え。

#### (2) 製造請負・受託・派遣事業

顧客企業における請負No.1を目指しシェア拡大に取り組む。16/6期に売上高99億円を目指しており、「派遣」の事業規模を維持しつつ、「請負・受託」を14/6期から16/6期にかけての3年間で高めていく考え。また、生産変動への対応と単価・条件交渉により「請負」の利益率向上にも取り組み、当事業の経常利益率を4.5%以上に引き上げる。



## 2. 2014年6月期第3四半期決算

## (1) 第3四半期(累計)連結業績

(単位:百万円)

	13/6期 3Q(累計)	構成比	14/6期 3Q(累計)	構成比	前年同期比
売上高	11,036	100.0%	12,909	100.0%	+17.0%
売上総利益	2,395	21.7%	3,150	24.4%	+31.5%
販管費	1,974	17.9%	2,176	16.9%	+10.2%
営業利益	420	3.8%	974	7.5%	+131.5%
経常利益	493	4.5%	998	7.7%	+102.3%
四半期純利益	290	2.6%	592	4.6%	+104.3%

※数値には(株)インベストメントブリッジが参考値として算出した数値が含まれており、実際の数値と誤差が生じている場合があります(以下同じ)。

## 営業力と採用力がかみ合い、前年同期比17.0%の増収、同102.3%の経常増益

売上高は前年同期比17.0%増の129億09百万円。自動車・自動車部品等の輸送用機器関連企業向けが好調に推移する中、半導体装置関連企業も回復し、技術者派遣・請負・委託事業の売上が同19.7%増加。製造請負・受託・派遣事業の売上も、輸送用機器関連企業、住宅関連企業、及び空調設備関連企業向け等を中心に同14.1%増加した。

経常利益は同102.3%増の9億98百万円。増収効果や、技術者派遣・請負・委託事業における契約条件の改善や単価改定に加え、前期は製造請負・受託・派遣事業において顧客企業の減産に伴う一過性の経費増が発生した事もあり、営業利益率が大幅に改善した(3.8%→7.5%)。

尚、同社は東証2部に株式を上場していたが、13年12月3日付けで東証1部に指定替えとなった。

## (2) セグメント別動向

## セグメント別売上高・利益

(単位:百万円)

	13/6期 3Q(累計)	構成比	14/6期 3Q(累計)	構成比	前年同期比
技術者派遣・請負・委託事業	5,815	52.7%	6,961	53.9%	+19.7%
製造請負・受託・派遣事業	5,173	46.9%	5,901	45.7%	+14.1%
障がい者雇用促進事業	6	0.1%	6	0.1%	-2.5%
不動産賃貸事業	39	0.4%	39	0.3%	-0.0%
連結売上高	11,036	100.0%	12,909	100.0%	+17.0%
技術者派遣・請負・委託事業	426	86.5%	775	77.6%	+81.7%
製造請負・受託・派遣事業	47	9.6%	205	20.6%	+335.5%
障がい者雇用促進事業	7	1.6%	5	0.6%	-28.5%
不動産賃貸事業	11	2.4%	12	1.2%	+2.7%
連結経常利益	493	100.0%	998	100.0%	+102.3%

## 技術者派遣・請負・委託事業

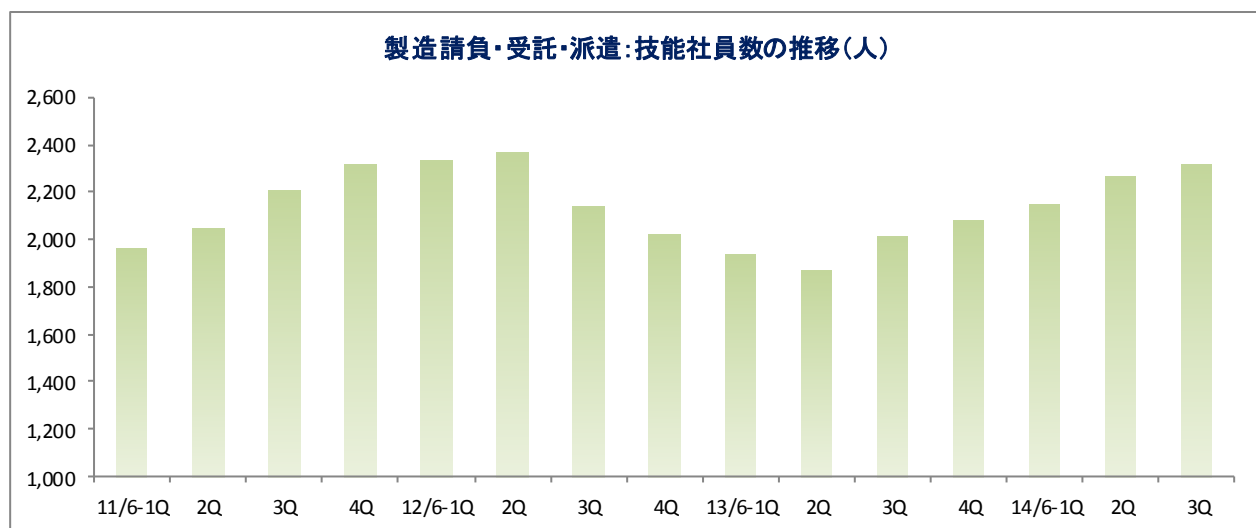
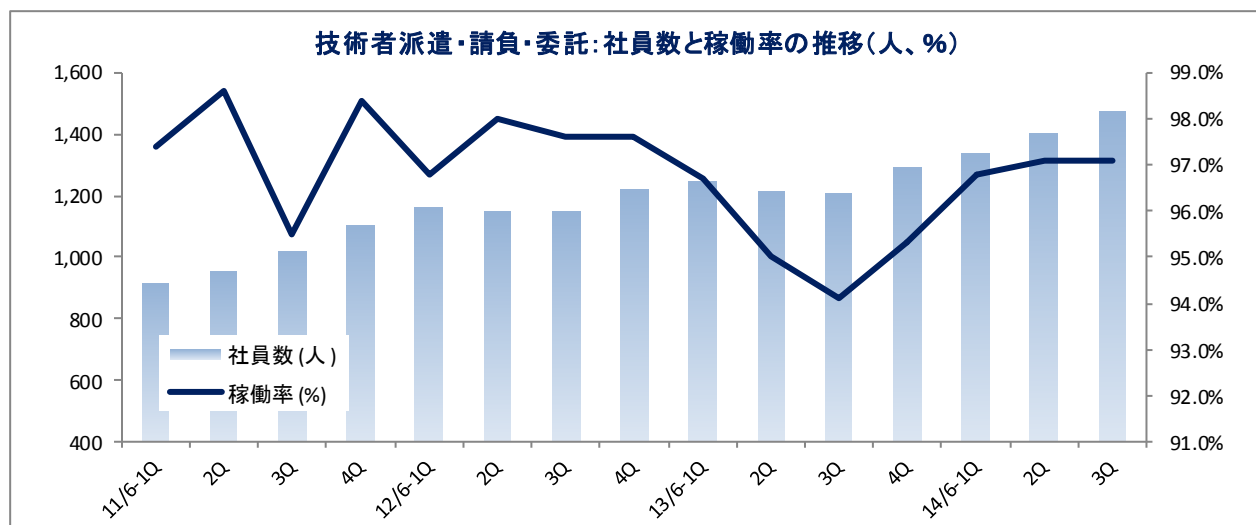
売上高69億61百万円(前年同期比19.7%増)、セグメント利益7億75百万円(前81.7%増)。自動車・自動車部品等の輸送用機器関連企業向けが好調に推移する中、半導体装置関連企業の回復や、航空機関連やプラント関連企業からの引き合いも増加。キャリア(経験者)採用も順調に進み、第3四半期末の技術社員数は1,471名と前年同期末に比べて265名増加(前期末との比較では178名増加)し、稼働率も97.1%と同3.0ポイント上昇(同1.8ポイント上昇)。条件交渉を積極的に行った結果、契約条件の改善や単価改定が奏功し利益率も改善した(7.3%→11.1%)。

## 製造請負・受託・派遣事業

売上高59億01百万円(前年同期比14.1%増)、セグメント利益2億05百万円(同335.5%増)。輸送用機器関連企業、住宅関連企業、及び空調設備関連企業の旺盛な人材需要の取り込み、請負業務における受注量の増加と採用強化で第3四半期末の社員数が2,319名と前年同期末に比べ308名増加した(前期末との比較では236名増加)。利益面では、売上の増加に加え、業務単価の条件



交渉により、前年同期比で大幅な増益となった。



### (3) 財政状態

(単位: 百万円)

	13年6月	14年3月		12年6月	14年3月
現預金	2,175	1,924	未払費用	1,327	983
売上債権	1,931	2,150	未払法人税・消費税等	434	330
流動資産	4,487	4,437	賞与引当金	115	288
有形固定資産	192	184	負債	2,064	1,861
無形固定資産	130	95	純資産	3,479	3,596
投資その他	733	739	負債・純資産合計	5,544	5,457
固定資産	1,056	1,019	有利子負債合計	-	-

第3四半期末の総資産は前期末とほぼ同水準(86百万円減)の54億57百万円。受注・売上の増加に伴う運転資金の増加で現預金が減少した。ただ、無借金で流動性に富んだ財政状態に変化はなく、自己資本比率は65.9%と前期末に比べて3.1ポイント改善した。

### 3. 2014年6月期業績予想

#### (1) 通期連結業績

	13/6期 実績	構成比	14/6期 予想	構成比	前期比
売上高	14,915	100.0%	17,800	100.0%	+19.3%
営業利益	718	4.8%	1,280	7.2%	+78.3%
経常利益	804	5.4%	1,300	7.3%	+61.7%
当期純利益	460	3.1%	780	4.4%	+69.6%

#### 通期業績予想に変更はなく、前期比 19.3%の増収、同 61.7%の経常増益

売上高は前期比 19.3%増の 178 億円。技術者派遣・請負・委託事業は、自動車関連企業からの受注好調に加え、半導体製造装置関連企業等の回復もあり、期末技術社員数が 1,530 名と前期末比 18.3%増加する見込み。一方、製造請負・受託・派遣事業は、自動車部品、住宅関連、家電等の加工・組立業務を中心に期末社員数が同 24.6%増の 2,595 名が見込まれる。

経常利益は同 61.7%増の 13 億円。旺盛な人材需要に対応するべく採用体制を強化すると共に求人費を積み増す考えだが、増収効果で吸収する。

#### セグメント別売上高・利益


	13/6期 実績	構成比	14/6期 予想	構成比	前期比
技術者派遣・請負・委託	7,842	52.6%	9,436	53.0%	+20.3%
製造請負・受託・派遣	7,010	47.0%	8,300	46.6%	+18.4%
障がい者雇用促進	9	0.1%	8	0.0%	-11.1%
不動産賃貸事業	53	0.4%	54	0.3%	+1.9%
連結売上高	14,915	100.0%	17,800	100.0%	+19.3%
技術者派遣・請負・委託	625	77.7%	960	73.8%	+53.6%
製造請負・受託・派遣	154	19.2%	322	24.8%	+109.1%
障がい者雇用促進	8	1.0%	2	0.2%	-75.0%
不動産賃貸事業	15	1.9%	15	1.2%	+0.0%
連結経常利益	804	100.0%	1,300	100.0%	+61.7%

#### (2) 期末配当は 1 株当たり東証 1 部指定替えに伴う記念配当 10 円を含む 30 円を予定。年間配当は 50 円(記念配 20 円を含む)


期末配当は 1 株当たり東証 1 部指定に伴う記念配当 10 円を含む 30 円を予定しており、上期末配当 20 円(東証 2 部上場に伴う記念配当 10 円を含む)と合わせて年 50 円となる見込み。同社は安定的な配当の実施を基本としつつ、グループの発展及び企業体質強化のための内部留保と業績に応じた株主還元へのバランスを取りながら配当を実施していく考え。

### 4. 今後の注目点

人材需要の急増で採用難が深刻化しており、採用が進まず好環境を活かせていない同業者もあるが、全国の拠点に配置された採用担当者と営業担当者が連携する事で即戦力の人材を機動的に採用し、タイムリーにマッチングできる事が同社の強みだ。契約条件の改善や単価改定も進んでいる模様で、予想通りの売上を確保できれば、利益が上振れする可能性が高い。また、目先の業績だけでなく、中期的な成長力を左右する海外展開が順調な事も注目点。既に香港の現地法人(HKTT)が人材サービス紹介と日本型派遣サービスによる日系企業の中国進出支援や中国現地企業向けサービスで実績をあげている。

 ▶ アラート申込み

トラスト・テックの適時開示情報の他、レポート発行時にメールでお知らせいたします。

 ▶ 登録データ変更

既にご登録済みの方で、登録内容に変更がある場合や登録解除の方は、こちらよりご変更ください。



ブリッジサロン  
公式 twitter アカウント

株式会社インベストメントブリッジの発行するブリッジレポートや投資家向け会社説明会の映像情報をつぶやいています。

本レポートは情報提供を目的としたものであり、投資勧誘を意図するものではありません。また、本レポートに記載されている情報及び見解は当社が公表されたデータに基づいて作成したものです。本レポートに掲載された情報は、当社が信頼できると判断した情報源から入手したのですが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。当該情報や見解の正確性、完全性もしくは妥当性についても保証するものではなく、また責任を負うものではありません。本レポートに関する一切の権利は(株)インベストメントブリッジにあり、本レポートの内容等につきましては今後予告無く変更される場合があります。投資にあたっての決定は、ご自身の判断でなされますようお願い申し上げます。

Copyright(C) 2014 Investment Bridge Co.,Ltd. All Rights Reserved.

ブリッジレポート(トラスト・テック:2154)のバックナンバー及びブリッジサロン(IRセミナー)の内容は、[www.bridge-salon.jp/](http://www.bridge-salon.jp/) でご覧になれます。